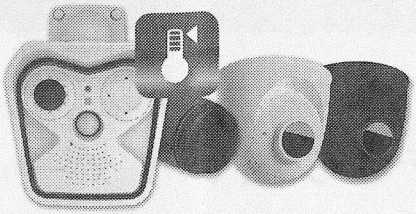
ハイエンド向けサーマル発売

急激な変化も捉えるTRカメラ／モジュール

MOBOTIX JAPAN



MOBOTIX JAPAN（K・Jフェロー、横浜市中区、戸田敬樹代表、TEL045・227・6174）は、サーマルカメラ／モジュールの新製品として、急激な温度変化による危険察知、広域モニタリングなどに適したハイエンド向けラインナップを拡大。今月からサーマルレディオメトリー（Thermal Radiometry＝熱放射線、以下TR）カメラ「M15」、サーマルレディオメトリセンサモジュール「S15D」を販売開始。

温度差を捉える特性を持つサーマルカメラは、主に産業用途で活用されてきた。だが、暗闇下での不審者検知など、セキュリティ用途でも今後の採用拡大が期待されている。同社ではサーマルカメラ「M15」を発売しているが、新製品はTRテクノロジーと温度測定機能に加えて、NETD 50mk（ミリケルビン）の温度分解能を備えたサーマルカメラ及びサーマルセンサモジュールとして提供するもの。従来のサーマルカメラの機能とともに、画面全体を対象に放射線を測定でき、温度値をピクセルごとに表示可能。ユーザは事前に設定した温度を基に、イベントのトリガーとして使うことができるとともに、画面を介して温度差を把握できる。

TRテクノロジーの搭載による利点として、可視光カメラでは視認不能な温度の急激な変化などによって生じる危険を察知可能。温度変化を迅速に検知するとともに、場所を特定することで、被害の未然防止に活用できる。また、MOBOTIX社のテクノロジーは、数百メートル先でも検知、測定が可能なので、困難な環境下の広域モニタリンク用途で運用可能。熱測定・TRの選択は、ブラウザを介して、カメラソフトウェアで設定できる。

カメラ、モジュールとも3種類のレンズから選択可能。価格はサーマルカメラが92万円から95万円。サーマルモジュールが69万円から71万円。PTマウントのサーマルモジュールは、白と黒の2種類、計6モデルをラインナップして71万円から74万円。